

『戦争社会学研究』投稿論文査読ガイドライン

2023年5月29日 編集委員会作成

1. 査読の趣旨

査読は、投稿論文を客観的に評価し、『戦争社会学研究』誌の研究水準を維持・向上するために設けられた制度である。

査読者は、真摯で、かつ必要に応じて教育的見地に立つことに努める必要がある。

2. 査読の流れ

編集委員会によって投稿原稿として受理された論文は、2名の匿名の査読者により査読を受ける。その結果をもとに編集委員会が審議し、次の査読段階に進むかどうかを決定する（第1次審査）。

第1次査読を通過して修正・再提出された原稿に対して、編集委員会は審議し、掲載の可否を決定する（第2次審査）。

3. 修正期間

修正期間は、原則として3週間である。

4. 査読の判定

論文の判定は、A～Dとし、必要に応じて＋－を付す。

A：掲載可。（若干の字句の修正を含む。）

B：再査読。（最善の努力を尽くせば約3週間で修正できる見込みがある）

C：掲載不可。（抜本的な修正が必要なため、次年度の再投稿を期待する）

D：主題や論じ方などが本誌にそぐわない。

5. 査読の評価項目の概略

評価項目の概略は以下の通りである。これに、査読コメントの文章が加わる。

1. 研究テーマがもつ学術的意義が十分に説明されているか
2. 研究目的や問いが明確に設定されているか
3. 関連領域の先行研究のレビューを十分に行い、研究を位置付け、先行研究に比した新しさやオリジナリティを有することを説明できているか
4. 調査や文献収集など研究方法が、目的や問いに対して適切であるか
5. 適切な根拠に基づき、論理的に飛躍することなく知見を導きだしているか
6. 各節の議論を論理的に積み重ね、目的や問いに対応した結論が導かれているか
7. 論文として必要な書式に一定準拠しているか（記述上の約束事、注、引用、文献、形式上の注意事項など）
8. 研究倫理に関する問題はないか

各項目の評価は、以下の3通りとする。

○：特に問題なし

△：やや問題あり

×：大きな問題あり